

## 編集後記

年に一度発行するこの紀要、後記は私たちが私たちの一年を振り返る「好機」にもなっています。

1999年度の所沢センターは、引き続き対外的なネットワークの拡充に力を注ぎました。また、研究活動としては、文化庁からの委嘱事業を終え、99年度は、センターのメンバーを中心に外部の方の協力も得て、「遠隔学習支援研究会」を立ち上げ調査研究を開始しました。本号でもこれに関する報告をお伝えしています。（この活動は99年度の国立国語研究所の研究委嘱を受けました。）

センター内部の活動も現況を反映した多彩なものでした。樺太（サハリン）をはじめとするロシア語圏からの帰国者を迎え、“多文化社会”が出来上がったのは大歓迎、しかし、カリキュラムも教材も出来上がっていない！という事態でした。これまでであった中国帰国者向けのカリキュラムや教材ではやはり不都合が出てきます。既に習い性になってしまった自転車操業を繰り返し、ロシア語圏からの学習者向けのものを作成し試用を重ねています。さらに、せっかくの“多文化社会”ですから、中国向け/ロシア語圏向けだけではもったいない。ロシア語圏からの帰国者と中国からの帰国者の混合クラスもでき、両方の学習者が共有できる教材も開発しました。また、混合クラスではなくても、双方と一緒に日本語の運用練習をしたり互いの事情を紹介しあったりするプログラムも運営しています。もちろん、従来の中国からの帰国者向け教材も、作成・改訂の作業を怠りません。

このように、いつまでも山のような課題を前に、それでもわくわくして仕事をしている私たちは果たして幸せ者なのか何なのか…。また次号でも、新しい試みについて報告できればと考えています。  
紀要編集委員一同

中国帰国者定着促進センター

紀要 第8号

発行 : 2000年 6月15日

編集者 : 中国帰国者定着促進センター

教務課 紀要編集委員会

042(993)1660 FAX 042(991)1689

ホームページアドレス <http://www.kikokusha-center.or.jp>

発行者 : 財団法人 中国残留孤児援護基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-5-8

オフィス虎ノ門1ビル

03(3501)1050